

陽だまり

6月4日

生徒指導通信No.6

新学期が始まってからこれまでの間、学校内は活気に満ちあふれ、各学年でそれぞれ大きな節目となる行事が行われました。1年生の「転地学習」、そして3年生の「修学旅行」。それぞれの場所で、生徒たちのたくさんの笑顔が見られたことはもちろん、何よりも全校生に伝えたい「大きな心の成長」を感じることができた素晴らしい行事となりました。学校といういつもの環境から一歩外へ出たからこそ、みんなの内に秘められた優しさや強さが、随所でキラリと光っていました。

今回の行事の中で、先生たちが現地で目撃した、素晴らしい姿をいくつか紹介します。まず印象的だったのは、前に出て連絡事項などを伝える先生の話や、現地の方のお話を聞くときの「聴く姿勢」の美しさです。相手の目をじっと見つめ、深くうなずきながら話を聞いている人がたくさんいました。「耳だけでなく心でも聞いている」という敬意が伝わるその姿勢に、深く感心させられました。

また、ホテルや宿舎を後にする際、誰に言われるでもなく、個人的に宿舎のスタッフの方のところへ歩み寄り、「ありがとうございました」「お世話になりました」と感謝の思いを直接伝えている人がいました。こうした自発的な感謝の言葉は、周りの人の心も温かくしてくれます。さらに集団行動においては、リーダーである実行委員が中心となって「今、何をすべきか」を必死に考え、声をかけ合って動く姿が光っていました。そして何より素晴らしかったのは、周囲の仲間たちの姿勢です。実行委員の人に任せにするのではなく、周りの人たちも「集団の一員として、今、自分がどう動くべきか」をしっかりと意識し、お互いに協力し合って行動できていました。自分勝手な行動を慎み、仲間を思いやる集団へと進化していることに、大きな成長を感じることができました。ここで得た学びを、ぜひこれからの日常の学校生活に繋げていってほしいと思います。

1・3年生が行事を経て素晴らしい姿を見せてくれた中、次は2年生の番です。2年生は、10月に「トライやる・ウィーク」が控えています。実際の社会に出て仕事をするという経験は、これからの皆さんの人生にとって非常に貴重で、大切な財産となるものです。

職場で働く方々がどんな思いで仕事に向き合っているのか、働くことの大変さややりがいを、ぜひ肌で感じてきてください。そのためにも、先輩や後輩が見せてくれた「相手の目を見て話を聞くこと」「感謝を言葉にすること」「周りを意識して行動すること」は、すべて社会に出たときに最も必要とされる力となります。2年生の皆さんは、10月の本番に向けて、日頃の学校生活から「社会人としてのマナー」を意識していきましょう。皆さんが社会の中で素晴らしい経験をし、一回り大きくなって帰ってくることを、今からとても楽しみにしています。

